

大連15年の発展

岡山県大連ビジネスサポートデスク 岡野涼子

これまで、何度か定期レポートで取り上げましたが、大連と日本の関係は深く、関係者の世代差も大きくなってきました。ある人は、大連は不便になったといい、ある人は便利で良くなったとし、或いは美観都市として素晴らしいという人もいれば、以前と比較して、かなり大気汚染が進んだという人もいます。大連に本社を置き、現在では香港を含む中国4拠点（大連、北京、上海、香港）で広告・フリーペーパー業を展開している「コンシェルジュ大連」が創刊15周年を迎え、この15年間の変化を特集しているので一部抜粋し、紹介します。

	1995年	2010年
<大連市人口>	534.7万人	584.8万人 うち開発区9.44万人→24.74万人
<大連市GDP>	635億元	4,417億元
<年間平均収入額>	5,126.8元	19,014元（都市部） 3,485元→10,725元（農村部）
<在留邦人数>	1,572人	5,427人
	（デスク注：実際には出張ベースも含め10,000人といわれている）	
<日系企業数>	295社	4,023社
	（2009年度の外資系企業数は13,641社、日系は約30%を占める。全て累計で、撤退したものも含む）	
<大連への日本人観光客数>	7万人	51.6万人
	（外国人旅行者数は13.1万人→94.7万人、日本人が半数以上）	
<空港利用乗客数>	156.6万人	955万人 1987年ANA就航、1997年JAL就航
<飛行機年間離着陸回数>	1.7万回	8.5万回
<日本人学校生徒数>	51名	164名

※1990年補習授業校として開校、1994年に日本人学校に改組。1995年に初めて卒業式を行う。

当時は小学部43名・中学部8名、現在は127名・37名

<耐久消費財所有率>…一戸あたりの各所有数/空調機器以外は数が少なく、1997年度より統計可能となった。

パソコン※1997年度	5.8万台→80.82台	携帯電話※1997年度	0.4台→193.7台
空調機器	0.3台→31.33台	自動車※1997年度	0.2台→5.86台
電子レンジ※1997年度	7.2台→75.55台		

出所：大連改革開放30周年統計要覧ほか  
コンシェルジュ大連201年8月号より抜粋

この数値からは、この15年の経済成長が驚くべき伸び率で進んだことが読みとれます。同時に、耐久消費財の統計項目が増えた1997年の翌年、1998年に大連の中興の祖ともいべき名市長の薄熙来市長が再び市長に就任し、辣腕をふるっており、その後数年かけてオリンピック広場やサファリパーク二期のオープン、星海広場の設備の拡大、現在ではすっかり大連名物となった中国国際ビール祭り（北京から大連へ開催地を移動）など、現在の大連の基礎が固まりました。近年は安定した地方都市大連として扱われることが多くなっていますが、実際には15年ほどでの変化でしかなく、今後東北の発展にあわせ、どのような改革が行われるか興味の尽きないところです。